

鹿角市文化財調査資料77

特別史跡

大湯環状列石(I)

2005年3月

鹿角市教育委員会

序

大湯環状列石は万座、野中堂環状列石を主体とする縄文時代の遺跡であり、その特異な形態、規模から昭和26年には国史跡に、さらに31年には特別史跡に指定されております。

昭和48年から51年に実施しました分布調査では、たくさんの遺構、遺物が発見され、環状列石と関連のある貴重な遺構がかなり広範囲に及んでいることが明らかとなりました。

この調査結果をもとに鹿角市は、昭和51年、52年に周辺遺跡をも含めた「特別史跡大湯環状列石保存管理計画書」を作成し、さらに59年からは同計画書を具体化し、史跡整備計画策定のための資料収集を目的に発掘調査を継続してまいりました。

各年次の発掘調査の成果は、その都度発掘調査報告書として刊行しておりますが、この度、これまでの発掘調査報告書を集成し、3分冊にまとめることになりました。

本書はその第Ⅰ分冊であり、第1次から第20次発掘調査で検出されました縄文時代の遺構について収録したものです。

本報告書が、環状列石の学術研究と史跡の保護や環境整備に些かでもお役に立てば幸いに存じます。

最後になりましたが、本報告書の作成にあたりご指導・ご支援を賜りました大湯環状列石環境整備事業検討委員会の各委員、文化庁文化財部記念物課、秋田県教育委員会、調査に関してご協力をいただきました関係機関、各位に心から厚くお礼を申し上げます。

平成17年3月31日

鹿角市教育委員会

教育長 織 田 育 生

例 言

1. 本報告書は、特別史跡大湯環状列石（Ⅰ）である。
2. 本報告書は、昭和59年度から史跡環境整備のための資料収集を目的に実施した特別史跡大湯環状列石（周辺遺跡）第1次～第20次発掘調査報告書（別表 第3表参照）をまとめたものである。
なお、当教育委員会がこれまでに公表したものと見解が異なる場合は、本報告書の記述内容が優先するものとする。
3. 本報告書第Ⅰ分冊に収録した内容は、縄文時代の遺構と遺構出土遺物である。遺構外の遺物、遺跡及び遺構の分析・考察は報告書（Ⅱ）として、歴史時代の遺構と遺物及び第21次発掘調査以降に検出された縄文時代・歴史時代の遺構と遺物については報告書（Ⅲ）として後刊する。
4. 本報告書の内容について、生涯学習課文化財班長秋元信夫、同主事三浦貴子、大湯ストーンサークル館主査藤井安正が検討し、それをもとに藤井安正が執筆した。
5. 本報告書に収載した実測図、写真図版、表作成については主に藤井安正が行なった。
実測図の縮尺については各々に示した。また、写真図版については任意の縮尺とした。
6. 本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行の「毛馬内・花輪（縮尺1/25,000）」を使用した。
7. 発掘調査、環境整備事業並びに本報告書の作成にあたって下記の方々のご指導・ご助言をいただいた。記して感謝の意を表します。（敬称略・順不動）
 - ・特別史跡大湯環状列石環境整備検討委員会委員（平成元年度～3年度）
小林達雄、富樫泰時、牛川喜幸、阿部義平、藤本英夫、安村二郎
 - ・特別史跡大湯環状列石環境整備事業検討委員会委員（平成8年度～）
小林達雄、安村二郎、熊谷常正、沢田正昭（平成10年度より）、富樫泰時（平成11年度より）
 - ・文化庁文化財部記念物課（昭和59年度～）
埋蔵部門 岡本東三、河原純之、伊藤 稔、佐久間 豊、岡村道雄、井上和人、松村恵司
須田 勉、西田健彦、小林 克、坂井秀弥、岡田康博
史跡部門 増渕 徹、磯村幸男
整備部門 安原啓示、加藤允彦、田中哲雄、本中 眞、平澤 毅、小野健吉、市原富士夫
 - ・秋田県教育庁文化課（昭和59年度～11年度）・生涯学習課文化財保護室（平成12年度～）
富樫泰時、熊谷太郎、武藤祐浩、大野憲司、泉田 健、櫻田 隆、吉川耕太郎
 - ・調 査 員
大里勝蔵、鎌田健一、三ヶ田俊明、谷地 薫、成田典彦、佐藤 樹、山谷昌久
岸 勉、宮本 毅
 - ・資料鑑定
中野益男、加納 博、三辻利一、赤沼英男、光谷拓実、工藤直樹

・協力者

齊藤 忠、佐原 真、工藤雅樹、鈴木克彦、本間 宏、村越 潔、林 謙作、大谷敏三
 スチュアート・ヘンリー、成田滋彦、上山春平、工楽善通、奥山 潤、三宅徹也、
 葛西 勵、高橋 潤、渡辺 誠、種市幸生、鈴木保彦、山本暉久、戸田哲也、江坂輝彌
 遠藤正夫、高田和徳、浅川滋男、中村良幸、水野正好、石井 寛、井上正鉄

8. 昭和26年・27年に文化財保護委員会が実施した発掘調査の風景写真を掲載した。これらの多くは
 半田市太郎氏、岩見誠夫氏、越中正一氏のご好意により『半田先生と秋田県の考古学』より転載さ
 せていただいた。

9. 本文中では下記の記号、スクリーン・トーンを使用した。

記 号	名 称	記 号	名 称	記 号	名 称
S B	掘立柱建物跡	S T	竪穴遺構	S X (S)	環状配石遺構、方形配石遺構、配石遺構、 立石遺構、集石遺構
S I	竪穴住居跡	S X (f)	焼土遺構		
S K	土坑	S X (0)	石囲炉	S A	柱穴列
S K (F)	フラスコ状土坑	S X (U)	埋設土器遺構		柱痕跡、焼土範囲、赤色範囲
S K (T)	Tピット	Pit	柱穴状ピット		確認面以下の地層・地山



整備された大湯環状列石



整備された大湯環状列石



整備前の大湯環状列石

史跡全景

本文目次（第1分冊）

序文

例言

本文目次

図版・表・写真目次

第I章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地…………… 1

第2節 大湯環状列石周辺の遺跡…………… 4

第II章 遺跡の調査と保存の歴史

第1節 遺跡の発見から今日まで…………… 6

1. 遺跡の発見と調査の歴史

2. 遺跡の保存、史跡指定と公有化事業

3. 遺跡の活用と環境整備事業

第2節 調査の目的と方法…………… 22

1. 調査の目的

2. 調査の方法

第III章 報告書の記載について

第1節 地区の設定…………… 24

第2節 検出遺構の分類…………… 24

第3節 遺構の記載について…………… 27

第IV章 遺跡の基本層序

第1節 遺跡の基本層序…………… 29

第V章 縄文時代の遺構と遺物

第1節 遺構…………… 32

1. 環状列石…………… 33

2. 配石遺構…………… 63

(1) 環状配石遺構

(2) 方形配石遺構

(3) 配石遺構

(4) 集石遺構

(5) 配石列

(6) 立石遺構

3. 柱穴状ピットと掘立柱建物跡・柱穴列	134
(1) 柱穴状ピット	
(2) 掘立柱建物跡	
(3) 柱穴列	
4. 竪穴住居跡	188
5. 竪穴遺構	207
6. 炉 跡	214
(1) 石囲炉	
(2) 埋設土器炉	
7. 焼土遺構	226
8. 土 坑	244
(1) Tピット	
(2) 土 坑	
(3) フラスコ状土坑	
9. 埋設土器遺構	362
大湯環状列石文献目録	368
写真図版	373
報告書抄録	525

図版・写真・表目次

図版目次

第1図	大湯環状列石と周辺遺跡……………	2	第40図	配石遺構実測図(10)……………	92
第2図	記載地区区分図……………	11	第41図	配石遺構実測図(11)……………	93
第3図	遺跡の基本層序……………	29	第42図	配石遺構実測図(12)……………	94
第4図	各地区の基本層序……………	30	第43図	配石遺構実測図(13)……………	95
第5図	万座環状列石実測図……………	34	第44図	配石遺構実測図(14)……………	96
第6図	野中堂環状列石実測図……………	35	第45図	配石遺構実測図(15)……………	97
第7図	万座環状列石組石遺構分布図(1)……………	36	第46図	肺性遺構出土土器……………	98
第8図	野中堂環状列石組石遺構分布図(1)……………	37	第47図	万座隣接地肺性遺構分布図……………	102
第9図	万座環状列石組石遺構分布図(2)……………	38	第48図	万座北側地区配石遺構分布図……………	103
第10図	野中堂環状列石組石遺構分布図(2)……………	39	第49図	万座南側・野中堂南側地区 配石遺構分布図……………	104
第11図	組石遺構形態別模式図……………	40	第50図	万座南側地区配石遺構実測図……………	105
第12図	万座環状列石組石遺構実測図(1)……………	41	第51図	万座南側地区配石遺構分布図……………	105
第13図	万座環状列石組石遺構実測図(2)……………	42	第52図	野中堂南側地区配石遺構実測図……………	106
第14図	万座環状列石組石遺構実測図(3)……………	43	第53図	一本木後口地区配石遺構分布図……………	107
第15図	万座環状列石組石遺構実測図(4)……………	44	第54図	集石遺構実測図(1)……………	116
第16図	万座環状列石組石遺構実測図(5)……………	45	第55図	集石遺構実測図(2)……………	117
第17図	野中堂環状列石組石遺構実測図(1)……………	46	第56図	集石遺構分布図……………	118
第18図	野中堂環状列石組石遺構実測図(2)……………	47	第57図	配石列実測図 (万座隣接地1・万座北側地区)……………	121
第19図	環状列石組石遺構土坑実測図(1)……………	48	第58図	配石列実測図(万座隣接地2)……………	122
第20図	環状列石組石遺構土坑実測図(2)……………	49	第59図	配石列実測図(野中堂南側地区)……………	122
第21図	環状列石組石遺構土坑実測図(3)……………	50	第60図	配石列分布図 (万座隣接地・万座北側地区)……………	125
第22図	環状配石遺構実測図(1)……………	66	第61図	配石列分布図(野中堂南側地区)……………	126
第23図	環状配石遺構実測図(2)……………	67	第62図	立石遺構実測図……………	131
第24図	環状配石遺構実測図(3)……………	68	第63図	立石遺構分布図……………	132
第25図	環状配石遺構実測図(4)……………	69	第64図	柱穴状ピット断面模式図……………	135
第26図	環状配石遺構実測図(5)……………	70	第65図	柱穴状ピット分布図(万座隣接地)……………	138
第27図	環状配石遺構実測図(6)……………	71	第66図	柱穴状ピット分布図(万座北側地区)……………	139
第28図	環状配石遺構・方形配石遺構分布図……………	72	第67図	柱穴状ピット分布図(野中堂隣接地)……………	140
第29図	方形配石遺構実測図……………	79	第68図	柱穴状ピット分布図(一本木後口地区)……………	141
第30図	配石遺構形態分類図……………	80	第69図	建物跡模式図……………	143
第31図	肺性遺構実測図(1)……………	83	第70図	建物跡栓配置模式図……………	144
第32図	配石遺構実測図(2)……………	84	第71図	建物跡出土土器実測図……………	148
第33図	配石遺構実測図(3)……………	85	第72図	建物跡出土土器拓影図……………	149
第34図	配石遺構実測図(4)……………	86	第73図	万座環状列石隣接地建物跡分布略図……………	153
第35図	配石遺構実測図(5)……………	87	第74図	万座環状列石隣接地建物跡分布図(1)……………	154
第36図	配石遺構実測図(6)……………	88	第75図	万座環状列石隣接地建物跡分布図(2)……………	155
第37図	配石遺構実測図(7)……………	89			
第38図	配石遺構実測図(8)……………	90			
第39図	配石遺構実測図(9)……………	91			

第76図	万座環状列石隣接地建物跡分布図（3）	156
第77図	万座環状列石隣接地建物跡分布図（4）	157
第78図	万座環状列石隣接地建物跡分布図（5）	158
第79図	万座環状列石隣接地建物跡分布図（6）	159
第80図	万座北側地区建物跡分布図	161
第81図	万座北側地区建物跡実測図	162
第82図	野中堂環状列石隣接地建物跡分布略図	163
第83図	野中堂環状列石隣接地建物跡分布図（1）	164
第84図	野中堂環状列石隣接地建物跡分布図（2）	165
第85図	野中堂環状列石隣接地建物跡分布図（3）	166
第86図	柱穴状ピット実測図（1）	185
第87図	柱穴状ピット実測図（2）	186
第88図	柱穴列位置図（万座北側地区）	187
第89図	柱穴列位置図（万座西側地区）	187
第90図	竪穴住居跡実測図（1）	190
第91図	竪穴住居跡実測図（2）	191
第92図	竪穴住居跡実測図（3）	192
第93図	竪穴住居跡実測図（4）	193
第94図	竪穴住居跡出土土器実測図（1）	196
第95図	竪穴住居跡出土土器実測図（2）	197
第96図	竪穴住居跡出土土器実測図（3）	198
第97図	竪穴住居跡出土土器実測図（4）	199
第98図	竪穴住居分布図（万座北側・西側地区）	201
第99図	竪穴住居分布図（野中堂隣接地）	201
第100図	竪穴遺構実測図（1）	209
第101図	竪穴遺構実測図（2）	210
第102図	竪穴遺構出土土器実測図	212
第103図	竪穴遺構分布図	213
第104図	石囲炉実測図（1）	217
第105図	石囲炉実測図（2）	218
第106図	石囲炉分布図	220
第107図	埋設土器炉実測図（1）	223
第108図	埋設土器炉実測図（2）	224
第109図	埋設土器炉分布図	225
第110図	焼土遺構実測図	228
第111図	焼土遺構分布図（万座隣接地）	231
第112図	焼土遺構分布図（万座北側地区）	231
第113図	焼土遺構分布図（万座西側地区）	232
第114図	焼土遺構分布図（野中堂隣接地）	232
第115図	焼土遺構分布図（一本木後口地区）	233

第116図	Tピット形態模式図	245
第117図	Tピット実測図（1）	246
第118図	Tピット実測図（2）	247
第119図	Tピット実測図（3）	248
第120図	Tピット実測図（4）	249
第121図	Tピット分布図（全体）	253
第122図	Tピット分布図（万座隣接地）	253
第123図	Tピット分布図（万座北側地区）	254
第124図	Tピット分布図（万座西側地区）	254
第125図	Tピット分布図（万座南側地区）	255
第126図	Tピット分布図（野中堂隣接地）	255
第127図	土坑分類図	261
第128図	土坑実測図（1）	262
第129図	土坑実測図（2）	263
第130図	土坑実測図（3）	264
第131図	土坑実測図（4）	265
第132図	土坑実測図（5）	266
第133図	土坑出土土器（1）	271
第134図	土坑出土土器（2）	272
第135図	土坑出土土器（3）	273
第136図	土坑出土土器（4）	274
第137図	土坑出土土器（5）	275
第138図	土坑出土土器（6）	276
第139図	土坑分布図（万座隣接地）	284
第140図	土坑分布図（万座北側地区）	285
第141図	土坑分布図（万座西側・南側地区）	285
第142図	土坑分布図（野中堂隣接地）	286
第143図	土坑分布図（一本木後口地区）	287
第144図	フラスコ状土坑形態分類	308
第145図	フラスコ状土坑実測図（1）	309
第146図	フラスコ状土坑実測図（2）	310
第147図	フラスコ状土坑実測図（3）	311
第148図	フラスコ状土坑実測図（4）	312
第149図	フラスコ状土坑堆積状況	314
第150図	フラスコ状土坑出土土器（1）	316
第151図	フラスコ状土坑出土土器（2）	317
第152図	フラスコ状土坑出土土器（3）	318
第153図	フラスコ状土坑出土土器（4）	319
第154図	フラスコ状土坑出土土器（5）	320
第155図	フラスコ状土坑出土土器（6）	321

第156図	フラスコ状土坑出土土器 (7)	322
第157図	フラスコ状土坑出土土器 (8)	323
第158図	フラスコ状土坑出土土器 (9)	324
第159図	フラスコ状土坑出土土器 (10)	325
第160図	フラスコ状土坑出土土器 (11)	326
第161図	フラスコ状土坑出土土器 (12)	327
第162図	フラスコ状土坑出土土器 (13)	328
第163図	フラスコ状土坑出土土器 (14)	329
第164図	フラスコ状土坑出土土器 (15)	330
第165図	フラスコ状土坑分布図 (万座隣接地) ...	334
第166図	フラスコ状土坑分布図 (万座北側地区1) ...	335

第167図	フラスコ状土坑分布図 (万座北側地区2) ...	336
第168図	フラスコ状土坑分布図 (万座西側地区)	337
第169図	フラスコ状土坑分布図 (万座南側地区)	338
第170図	フラスコ状土坑分布図 (野中堂隣接地区) ...	339
第171図	埋設土器遺構実測図	364
第172図	埋設土器実測図 (1)	365
第173図	埋設土器実測図 (2)	366
第174図	埋設土器遺構分布図	367

表目次

第1表	大湯環状列石周辺の遺跡……………	3	第42表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅰ類－3）…	169
第2表	大湯環状列石の調査と保存の歴史……………	7	第43表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅱ類－1）…	170
第3表	発掘調査の経過と成果……………	10	第44表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅱ類－2）…	171
第4表	史跡指定・追加指定の経緯……………	14	第45表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅱ類－3）…	172
第5表	史跡指定と公有化事業の動き……………	17	第46表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅱ類－4）…	173
第6表	地区の設定……………	25	第47表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅱ類－5）…	174
第7表	各地区の遺構分布数……………	32	第48表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅲ類～Ⅳ類－1）	175
第8表	万座環状列石を構成する配石遺構（1）	51	第49表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅲ類～Ⅳ類－2）	176
第9表	万座環状列石を構成する配石遺構（2）	52	第50表	掘立柱建物跡（万座北側地区Ⅰ類）…	177
第10表	万座環状列石を構成する配石遺構（3）	53	第51表	掘立柱建物跡（万座北側地区Ⅱ類－1）	178
第11表	万座環状列石を構成する配石遺構（4）	54	第52表	掘立柱建物跡（万座北側地区Ⅱ類－2）	179
第12表	万座環状列石を構成する配石遺構（5）	55	第53表	掘立柱建物跡（万座西側地区Ⅱ類）…	179
第13表	万座環状列石を構成する配石遺構（6）	56	第54表	掘立柱建物跡（万座西側地区Ⅲ類～Ⅳ類）	180
第14表	野中堂環状列石を構成する配石遺構（1）	57	第55表	掘立柱建物跡（野中堂隣接地Ⅰ類）…	180
第15表	野中堂環状列石を構成する配石遺構（2）	58	第56表	掘立柱建物跡（野中堂隣接地Ⅱ類－1）	181
第16表	野中堂環状列石を構成する配石遺構（3）	59	第57表	掘立柱建物跡（野中堂隣接地Ⅱ類－2）	182
第17表	環状配石遺構（万座隣接地地区）…	73	第58表	掘立柱建物跡（野中堂隣接地Ⅲ類～Ⅳ類）	182
第18表	環状配石遺構（万座北側地区1）…	74	第59表	柱穴列（万座北側地区）…	188
第19表	環状配石遺構（万座北側地区2）…	75	第60表	柱穴列（万座西側地区）…	188
第20表	環状配石遺構（万座北側地区3）…	76	第61表	竪穴住居跡（万座北側地区1）…	203
第21表	方形配石遺構（万座隣接地・野中堂隣接地）	80	第62表	竪穴住居跡（万座北側地区2）…	204
第22表	配石遺構形態比較表……………	82	第63表	竪穴住居跡（万座西側地区1）…	205
第23表	配石遺構（万座隣接地）…	108	第64表	竪穴住居跡（万座西側地区2）…	206
第24表	配石遺構（万座北側地区1）…	109	第65表	竪穴住居跡（野中堂隣接地）…	207
第25表	配石遺構（万座北側地区2）…	110	第66表	竪穴遺構（万座隣接地）…	214
第26表	配石遺構（万座南側地区）…	111	第67表	竪穴遺構（万座北側地区）…	214
第27表	配石遺構（野中堂南側地区）…	111	第68表	石囲炉（万座隣接地）…	221
第28表	配石遺構（一本木後口地区1）…	112	第69表	石囲炉（万座北側地区）…	221
第29表	配石遺構（一本木後口地区2）…	113	第70表	石囲炉（野中堂隣接地）…	221
第30表	配石遺構（一本木後口地区3）…	114	第71表	埋設土器炉（万座北側地区）…	226
第31表	集石遺構（万座北側地区）…	119	第72表	焼土遺構（万座隣接地－1）…	235
第32表	配石列（万座隣接地）…	127	第73表	焼土遺構（万座隣接地－2）…	236
第33表	配石列（万座北側地区）…	127	第74表	焼土遺構（万座北側地区－1）…	237
第34表	配石列（野中堂隣接地）…	128	第75表	焼土遺構（万座北側地区－2）…	238
第35表	配石列（野中堂南側地区）…	128	第76表	焼土遺構（万座北側地区－3）…	239
第36表	配石列（一本木後口地区）…	128	第77表	焼土遺構（万座西側地区－1）…	239
第37表	立石遺構（万座隣接地）…	133	第78表	焼土遺構（万座西側地区－2）…	240
第38表	立石遺構（万座北側地区）…	133	第79表	焼土遺構（万座南側地区）…	240
第39表	各地区の柱穴状ピット分布図と規模…	142	第80表	焼土遺構（野中堂隣接地）…	241
第40表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅰ類－1）…	167	第81表	焼土遺構（野中堂南側地区－1）…	242
第41表	掘立柱建物跡（万座隣接地Ⅰ類－2）…	168	第82表	焼土遺構	

	(野中堂南側地区－2・東側地区を含む)	243
第83表	焼土遺構(一本木後口地区－1)	243
第84表	焼土遺構(一本木後口地区－2)	244
第85表	Tピット(万座隣接地)	257
第86表	Tピット(万座北側地区－1)	258
第87表	Tピット(万座北側地区－2)	259
第88表	Tピット(万座西側地区)	259
第89表	Tピット(万座南側地区)	260
第90表	Tピット(野中堂隣接地)	260
第91表	土坑(万座隣接地－1)	289
第92表	土坑(万座隣接地－2)	290
第93表	土坑(万座隣接地－3)	291
第94表	土坑(万座隣接地－4)	292
第95表	土坑(万座隣接地－5)	293
第96表	土坑(万座隣接地－6)	294
第97表	土坑(万座隣接地－7)	295
第98表	土坑(万座隣接地－8)	296
第99表	土坑(万座隣接地－9)	297
第100表	土坑(万座北側地区－1)	298
第101表	土坑(万座北側地区－2)	299
第102表	土坑(万座北側地区－3)	300
第103表	土坑(万座北側地区－4)	301
第104表	土坑(万座西側地区)	302
第105表	土坑(万座南側地区)	302
第106表	土坑(野中堂隣接地－1)	303
第107表	土坑(野中堂隣接地－2)	304
第108表	土坑(野中堂隣接地－3)	305

第109表	土坑(野中堂隣接地－4)	306
第110表	土坑(一本木後口地区)	307
第111表	フラスコ状土坑(万座隣接地－1)	341
第112表	フラスコ状土坑(万座隣接地－2)	342
第113表	フラスコ状土坑(万座隣接地－3)	343
第114表	フラスコ状土坑(万座隣接地－4)	344
第115表	フラスコ状土坑(万座隣接地－5)	345
第116表	フラスコ状土坑(万座隣接地－6)	346
第117表	フラスコ状土坑(万座隣接地－7)	347
第118表	フラスコ状土坑(万座隣接地－8)	348
第119表	フラスコ状土坑(万座隣接地－9)	349
第120表	フラスコ状土坑(万座隣接地－10)	350
第121表	フラスコ状土坑(万座隣接地－11)	351
第122表	フラスコ状土坑(万座北側地区－1)	352
第123表	フラスコ状土坑(万座北側地区－2)	353
第124表	フラスコ状土坑(万座北側地区－3)	354
第125表	フラスコ状土坑(万座北側地区－4)	355
第126表	フラスコ状土坑(万座西側地区)	356
第127表	フラスコ状土坑(万座南側地区)	357
第128表	フラスコ状土坑(野中堂隣接地－1)	358
第129表	フラスコ状土坑(野中堂隣接地－2)	359
第130表	フラスコ状土坑(野中堂隣接地－3)	360
第131表	フラスコ状土坑(野中堂隣接地－4)	361
第132表	フラスコ状土坑(野中堂隣接地－5)	362
第133表	埋設土器遺構(万座隣接地)	368
第134表	埋設土器遺構(万座北側地区)	368

写真目次

巻頭 1 整備された大湯環状列石	P L 40 万座環状列石 (16)	413
巻頭 2 史跡全景	P L 41 万座環状列石 (17)	414
P L 1 史跡内の草花	P L 42 万座環状列石 (18)	415
P L 2 諸助山・安久谷川	P L 43 万座環状列石 (19)	416
P L 3 関連遺跡	P L 44 万座環状列石 (20)	417
P L 4 整備前の大湯環状列石全景	P L 45 万座環状列石 (21)	418
P L 5 復元された大湯環状列石 (1)	P L 46 万座環状列石 (22)	419
P L 6 復元された大湯環状列石 (2)	P L 47 万座環状列石 (23)	420
P L 7 復元された大湯環状列石 (3)	P L 48 万座環状列石 (24)	421
P L 8 復元された大湯環状列石 (4)	P L 49 万座環状列石 (25)	422
P L 9 大湯ストーンサークル館 (1)	P L 50 万座環状列石 (26)	423
P L 10 大湯ストーンサークル館 (2)	P L 51 万座環状列石 (27)	424
P L 11 大湯ストーンサークル館 (3)	P L 52 万座環状列石 (28)	425
P L 12 活用 (1)	P L 53 万座環状列石 (29)	426
P L 13 活用 (2)	P L 54 万座環状列石 (30)	427
P L 14 活用 (3)	P L 55 万座環状列石 (31)	428
P L 15 史跡全景・近景	P L 56 万座環状列石 (32)	429
P L 16 基本層序	P L 57 万座環状列石 (33)	430
P L 17 万座環状列石 (昭和26年)	P L 58 万座環状列石 (34)	431
P L 18 国営調査の風景 (1)	P L 59 万座環状列石 (35)	432
P L 19 国営調査の風景 (2)	P L 60 万座環状列石 (36)	433
P L 20 国営調査の風景 (3)	P L 61 万座環状列石 (37)	434
P L 21 国営調査の風景 (4)	P L 62 万座環状列石 (38)	435
P L 22 調査後の環状列石 (昭和26年)	P L 63 万座環状列石 (39)	436
P L 23 発掘調査記念写真	P L 64 万座環状列石 (40)	437
P L 24 発掘調査記念色紙	P L 65 野中堂環状列石 (1)	438
P L 25 万座環状列石 (1)	P L 66 野中堂環状列石 (2)	439
P L 26 万座環状列石 (2)	P L 67 野中堂環状列石 (3)	440
P L 27 万座環状列石 (3)	P L 68 野中堂環状列石 (4)	441
P L 28 万座環状列石 (4)	P L 69 野中堂環状列石 (5)	442
P L 29 万座環状列石 (5)	P L 70 野中堂環状列石 (6)	443
P L 30 万座環状列石 (6)	P L 71 野中堂環状列石 (7)	444
P L 31 万座環状列石 (7)	P L 72 野中堂環状列石 (8)	445
P L 32 万座環状列石 (8)	P L 73 野中堂環状列石 (9)	446
P L 33 万座環状列石 (9)	P L 74 野中堂環状列石 (10)	447
P L 34 万座環状列石 (10)	P L 75 野中堂環状列石 (11)	448
P L 35 万座環状列石 (11)	P L 76 野中堂環状列石 (12)	449
P L 36 万座環状列石 (12)	P L 77 野中堂環状列石 (13)	450
P L 37 万座環状列石 (13)	P L 78 野中堂環状列石 (14)	451
P L 38 万座環状列石 (14)	P L 79 野中堂環状列石 (15)	452
P L 39 万座環状列石 (15)	P L 80 野中堂環状列石 (16)	453

P L 81	野中堂環状列石 (17)	454	P L 117	掘立柱建物跡 (1)	490
P L 82	野中堂環状列石 (18)	455	P L 118	掘立柱建物跡 (2)	491
P L 83	野中堂環状列石 (19)	456	P L 119	掘立柱建物跡 (3)	492
P L 84	調査区全景 (1)	457	P L 120	掘立柱建物跡 (4)	493
P L 85	調査区全景 (2)	458	P L 121	掘立柱建物跡 (5)	494
P L 86	調査区全景 (3)	459	P L 122	掘立柱建物跡 (6)	495
P L 87	調査区全景 (4)	460	P L 123	掘立柱建物跡 (7)	496
P L 88	調査区全景 (5)	461	P L 124	柱穴列 (1)	497
P L 89	環状配石遺構 (1)	462	P L 125	柱穴列 (2)	498
P L 90	環状配石遺構 (2)	463	P L 126	竪穴住居跡 (1)	499
P L 91	環状配石遺構 (3)	464	P L 127	竪穴住居跡 (2)	500
P L 92	環状配石遺構 (4)	465	P L 128	竪穴遺構 (1)	501
P L 93	環状配石遺構 (5)	466	P L 129	竪穴遺構 (2)	502
P L 94	環状配石遺構 (6)	467	P L 130	石囲炉 (1)	503
P L 95	方形配石遺構	468	P L 131	石囲炉 (2)	504
P L 96	配石遺構 (1)	469	P L 132	石囲炉 (3)	505
P L 97	配石遺構 (2)	470	P L 133	土器埋設炉・焼土遺構	506
P L 98	配石遺構 (3)	471	P L 134	Tピット (1)	507
P L 99	配石遺構 (4)	472	P L 135	Tピット (2)	508
P L 100	配石遺構 (5)	473	P L 136	Tピット (3)	509
P L 101	配石遺構 (6)	474	P L 137	Tピット (4)	510
P L 102	配石遺構 (7)	475	P L 138	Tピット (5)	511
P L 103	配石遺構 (8)	476	P L 139	土坑 (1)	512
P L 104	配石遺構 (9)	477	P L 140	土坑 (2)	513
P L 105	配石遺構 (10)	478	P L 141	土坑 (3)	514
P L 106	配石遺構 (11)	479	P L 142	土坑 (4)	515
P L 107	配石遺構 (12)	480	P L 143	土坑 (5)	516
P L 108	配石遺構 (13)	481	P L 144	土坑 (6)	517
P L 109	配石遺構 (14)	482	P L 145	フラスコ状土坑 (1)	518
P L 110	集石遺構	483	P L 146	フラスコ状土坑 (2)	519
P L 111	配石列 (1)	484	P L 147	フラスコ状土坑 (3)	520
P L 112	配石列 (2)	485	P L 148	フラスコ状土坑 (4)	521
P L 113	立石遺構	486	P L 149	フラスコ状土坑 (5)	522
P L 114	柱穴状ピット (1)	487	P L 150	フラスコ状土坑 (6)	523
P L 115	柱穴状ピット (2)	488	P L 151	埋設土器遺構 (1)	524
P L 116	柱穴状ピット (3)	489	P L 152	埋設土器遺構 (2)	525

第1章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と立地（第1図）

石川啄木によって「青垣山を繞らせる天さかる鹿角の國」と詠まれた鹿角市は、秋田県の北東部、米代川の上流域、奥羽山脈の裾野に形成された断層盆地（鹿角盆地）を中心に占める位置にある。

秋田・岩手・青森三県にまたがる中岳（標高1,024m）周辺を水源とする米代川は、岩手県安代町田山地区で流れを集め、次第に川幅を増しながら鹿角盆地を貫流する。十和田地区で小坂川と大湯川を合流し、川幅をさらに増し大館盆地・鷹巣盆地・能代平野を貫けて日本海へと注いでいる。

鹿角盆地を包み込むように東側に壮年期の山々が連なる奥羽山脈、西側に高森山系の山並みがあり、裾野には十和田（湖）火山を噴出源とするシラスの台地が形成されている。これらの台地は、米代川の支流である河川の浸食によって形成された舌状台地や河岸段丘で、この台地上には縄文時代から近世に営まれた416カ所もの遺跡が所在している。

特別史跡大湯環状列石は、鹿角市の北東部に形成された「中通台地」のほぼ中央に位置する。この台地は大湯川と豊真木沢川の浸食によって形成された西側に延びる台地で、標高は150m～190mほどである。

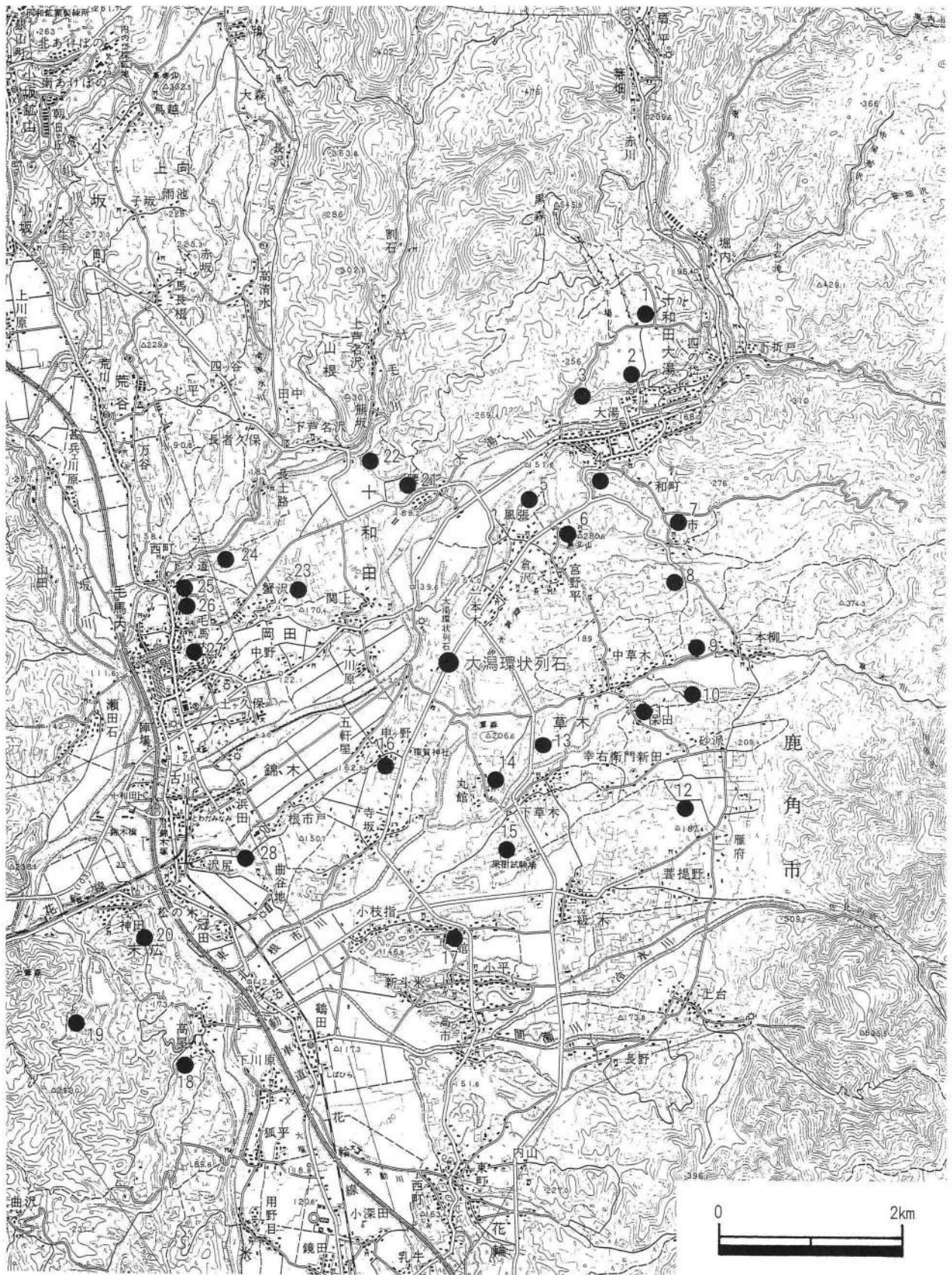
この台地は、大正末期に開始された中通地区の耕地整理事業によって碁盤の目のように整然と水田が造成されたものの、まもなく水田の漏水により傾斜地の崩壊・地割れが相次ぎ、再び畑地への転換が余儀なくされた。文化財保護委員会刊行の報告書『大湯町環状列石』に収載された昭和26年・27年当時の写真を見ると、草が生い茂り原野化している様子を示している。

この当時、2つの環状列石を分断するように道路（現在の県道）が通っており、その両側に沿って畑が作られていたことがわかる。次第に道路は整備され県道へと昇格し、生活・観光道路としての機能を持ち始めた。道路が整備されるに従って農業の機械化が進み野菜、タバコ、リンゴの栽培が盛んに行われるようになった。

史跡に立つと、鹿角盆地を囲む四方の山並みを見渡すことができ、環状列石の構築に大きな係わりをもったと考えられる太陽の動きを手にとるように感じ取ることができる。台地の斜面には、環状列石を構築した人々も手にすくい喉を潤したであろうと思われる湧き水が至る所に点在し、今もコンコンと湧出している。

前出の『報告書』「第二章 第四節 大湯遺跡時代の地理学的環境」では、この台地上には「たいした森林はなく恐らく草原及至は散樹草原が広がっていた」であろうと記載されている。しかし現在、遺跡ののる台地斜面のいたるところには落葉広葉樹林があり、ドングリ・クリなどの樹木やアケビ、キノコなどが自生している。この落葉広葉樹林にはウサギやニホンカモシカ、ツキノワグマが生息し、時折遺跡内にも出没する。

史跡は平成10年度から五カ年計画で進められた「特別史跡大湯環状列石環境整備事業」によって、万座・野中堂環状列石を中心とする地域は、列石を特徴付ける遺構の復元のほか、環状列石が構築された当時の地形、植栽が復元され、縄文の雰囲気醸し出されている。



第1図 大湯環状列石と周辺遺跡

第1表 大湯環状列石周辺の遺跡

番号	遺跡名	所在地	概要
1	黒森山麓	鹿角市十和田大湯字上内野	縄文中期末葉の集落跡、 『黒森山麓縄文期竪穴群』十和田町教育委員会 1971 年
2	下内野Ⅱ	鹿角市十和田大湯字下内野	縄文中期末葉の集落跡 『下内野Ⅱ遺跡』鹿角市教育委員会 2000 年
3	下内野Ⅲ	鹿角市十和田大湯字下内野	石英閃緑玢岩の集積あり（大湯川を挟んだ対岸）
4	小清水	鹿角市十和田大湯字小清水	石英閃緑玢岩の集積あり （大湯環状列石ののる台地付け根）
5	上屋布Ⅱ	鹿角市十和田大湯字上屋布	遺物包含地
6	堤尻Ⅰ・Ⅱ	鹿角市十和田大湯字堤尻	遺物包含地
7	和町Ⅰ	鹿角市十和田大湯字和町	遺物包含地
8	根市	鹿角市十和田大湯字根市	遺物包含地
9	松舟	鹿角市十和田草木字松舟	遺物包含地 『市内遺跡詳細分布調査』2005 年報告書刊行
10	崩原	鹿角市十和田草木字崩原	遺物包含地
11	保田Ⅱ	鹿角市十和田草木字保田	遺物包含地
12	高間館	鹿角市花輪字菩提野	遺物包含地
13	草木A	鹿角市十和田草木字小坂	遺物包含地、 『鹿角市・小坂町大規模農道発掘調査報告書』 秋田県教育委員会 1973 年
14	丸館Ⅳ	鹿角市十和田草木字丸館	遺物包含地
15	土木	鹿角市花輪字土木	遺物包含地
16	申ヶ野Ⅴ	鹿角市十和田錦木字申ヶ野	遺物包含地
17	平元館	鹿角市花輪源田平	遺物包含地
18	高屋館跡	鹿角市花輪字館ノ沢ほか	中世城館、大湯環状列石の類似遺跡、 『西山地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅵ－高屋館跡－』1990 年
19	板橋Ⅱ	鹿角市十和田末広字板橋	遺物包含地
20	上ノ野Ⅳ	鹿角市十和田末広字上野	遺物包含地
21	吹越Ⅱ	鹿角市十和田山根字吹越	遺物包含地
22	下砂沢	鹿角市十和田山根字上ノ平	配石遺構 『下砂沢遺跡発掘調査報告書』鹿角市教育委員会 1990 年
23	竹林	鹿角市十和田岡田字竹林	遺物包含地
24	湯坂Ⅱ	鹿角市十和田毛馬内字湯坂	遺物包含地 砂利採取により消失
25	寺ノ上Ⅲ	鹿角市十和田毛馬内字寺ノ上	遺物包含地
26	寺ノ上Ⅰ	鹿角市十和田毛馬内字寺ノ上	遺物包含地
27	柏崎館跡	鹿角市十和田毛馬内字柏崎ほか	中世城館、遺物包含地、 『柏崎館跡発掘調査報告書』鹿角市教育委員会 1989 年
28	物見坂Ⅲ	鹿角市十和田錦木字物見坂	縄文早期の集落・土坑群、奈良時代の集落 『物見坂Ⅲ遺跡－国道 282 号国道道路改築事業埋蔵文化財発掘調査報告書』秋田県教育委員会 2003 年 平成 16 年鹿角市教育委員会調査 2005 年報告書刊行

※ 鹿角市文化財調査資料 39 秋田県鹿角市遺跡詳細分布調査報告書 1990 年刊行より

第2節 大湯環状列石周辺の遺跡

市内の縄文時代の遺跡

鹿角市内には平成元年の時点において416カ所の遺跡が発見されている。これらの遺跡は鹿角盆地東側に発達した台地に多くが存在し、そのなかでも大湯環状列石周辺は分布密度が高い。

鹿角市内に所在する縄文時代の遺跡を概観する。

縄文時代草創期の遺跡としては飛鳥平遺跡がある。東北縦貫自動車道の建設に先立って発掘調査された遺跡で爪形文土器片が4点出土した。

早期の遺跡としては物見坂Ⅲ遺跡がある。遺跡は平成14年に国道改良工事に伴って秋田県埋蔵文化財センターが、平成16年度には農道改良工事に伴って鹿角市教育委員会が発掘調査を行っている。市教育委員会の調査では貝殻文・貝殻沈線文系の土器とともに早期の竪穴住居跡1棟が検出されている。なお、貝殻文土器片は平成元年に大湯環状列石からも発見されている。

前期の遺跡としては清水向遺跡がある。昭和29年に武藤鉄城氏らによって発掘調査され、竪穴住居跡2棟が検出されている。円筒下層式土器とともに大木系土器が出土した。出土した土器のうち十数点は國學院大學博物館に収蔵・展示されているが、地元に残された土器類は所蔵家屋の火災とともに消失した。

中期になると遺跡の数も飛躍的に多くなる。大規模集落として紹介されることのできる天戸森遺跡からは竪穴住居跡140棟、土坑103基、配石遺構21基などの遺構ともに多量の土器・石器が出土した。その結果、数棟の家で構成されたムラが幾度も建替えられ、長年にわたり営まれた遺跡であること、また、配石遺構が弧状を呈するように配置されており、環状列石の萌芽を感じさせるものであった。土器は東北南部の大木式土器、北部の円筒上層式土器とともに大木式の影響を受けた中の平Ⅲ式土器が出土しており、集落や土器編年の研究では欠かすことのできない遺跡となっている。

後期の遺跡としては、後期前葉に位置づけられる高屋館跡(後述)で検出された環状列石がある。中葉に位置づけられる遺跡は、平成9年に鹿角市花輪スキー場を会場に行われた冬季国体に関連して発掘調査された赤坂A遺跡がある。この遺跡からは後期中葉の竪穴住居跡6棟が検出され、後期中葉のムラの様子が明らかにされた。

晩期では玉内遺跡、東在家遺跡があり、2つの遺跡は米代川を挟み500mの距離で対峙している。玉内遺跡は昭和43年、阿部義平氏によって「考古学雑誌第54巻第1号」で紹介された。その後、昭和62年国道改良工事に先立って県埋蔵文化財センターが調査を行ない、配石墓4基、土坑墓11基、土器棺墓7基のほか晩期前葉の土器が出土した。なお、阿部氏によって紹介された配石遺構(日時計状組石)は現在も民家の庭に保存されている。東在家遺跡は、東北縦貫自動車道路のルート選定時に行なわれた分布調査の際に秋田県立十和田高等学校社会科同好会によって試掘調査が行なわれている。その結果、竪穴住居跡2棟と復元土器28点が出土した。遺跡が所在する土地の所有者も耕作時に出土した土器や石器を採取しており、その一部は鹿角市指定文化財(考古)となっている。

大湯環状列石周辺の遺跡 (第1図、第1表)

第1図は、大湯環状列石周辺の遺跡分布状況である。環状列石と同時期またはこれに前後する遺跡

に限って図示したことから遺跡数は少ないが、いずれも環状列石との関連が注目される遺跡である。

黒森山麓遺跡群(No.1)は大湯環状列石の北東側4.5kmの地点で、黒森山斜面を利用した大湯スキー場のロッジ周辺がその中心部となる。昭和45年に発掘調査が行なわれ、縄文中期末葉の竪穴住居跡5棟が検出され、付設された複式炉は当時北限のものとして注目を浴びた。住居平面は円形を基調とし、規模は径5.5～9mである。遺構外から出土した土器には後期の土器片が含まれており、広い範囲を調査することによって後期の集落を発見する可能性が高い。

下内野Ⅱ遺跡(No.2)は、黒森山麓遺跡群から南西側に600m離れた台地縁に位置し、眼下に大湯川を望むことができる。携帯電話電波塔建設に先立って約100㎡が調査された。面積は少ないものの調査区より竪穴住居跡6棟、フラスコ状土坑7基などが密集・重複して検出された。中期末葉を中心とする集落であるが、調査区を中心に広範囲に後期初頭～前葉の土器が表面採取できることから、黒森山麓遺跡群同様に後期の集落を発見できる可能性が高い遺跡である。

下内野Ⅱ遺跡から台地縁に沿って約400m西方に下内野Ⅲ遺跡(No.3)が所在する。昭和58年に周知の遺跡として登録され、遺跡発見届には遺物包含地として記載されている。平成元年の市内詳細分布調査時には大湯環状列石の構築材と同じ石英閃緑玢岩が畑境に野積みされていた。台地の縁には配石遺構群が、その内陸部にはこれらを作り上げた人々の集落の存在を想定することができる。

大湯環状列石ののる台地基部に小清水遺跡(No.4)が所在する。台地から大湯温泉市街地へ下る在郷坂の東側で、後期土器片とともに石英閃緑玢岩が現在も山積みとなっている。台地縁に約10,000㎡の平坦地が広がっていることから環状列石の存在、または列石と採取地の中間地点であることから石材集積地としても想定できる遺跡である。

上屋布Ⅱ遺跡(No.5)、堤尻Ⅰ・Ⅱ遺跡(No.6)、申ヶ野Ⅴ遺跡(No.16)は大湯環状列石と同じ台地にあり、同時期の土器片が採取される。このことから分布・試掘調査を実施し、環状列石との関連を追及する必要がある。

大湯環状列石と豊真木沢川を挟んで位置する草木A遺跡(No.13)は、昭和49年に広域農免農道建設に先立って発掘調査が行なわれた。遺構は検出されなかったものの後期後半の土器が出土している。遺跡後方には平坦地が広がっており集落の存在も考えられ、環状列石以後の様子を探る上で貴重な遺跡である。

高屋館跡(No.18)は大湯環状列石のある台地とは米代川を挟んで対岸に所在する。平成元年に西山農免農道の建設に先立って秋田県埋蔵文化財センターによって調査された。大湯環状列石とは約4km離れている。米代川を挟んだ山地の裾野に形成された狭い平坦地から径約34mの環状列石とそれを規則的に取り囲む26棟の掘立柱建物跡が発見されている。